

静 修

◇学校だより
平成29年 【5月号】
光市立上島田小学校



～新学期が始まって1ヶ月が過ぎました～

新学期が始まって1ヶ月が過ぎました。1年生は学校に、また2年生から6年生は新学年の生活に慣れてきました。どの学年も落ち着いて授業に臨み、明るく元気に学校生活を送っています。先日のふれあい遠足では、縦割り班で活動し、上級生が下級生のお世話をよくやり全員無事に帰校しました。1年生も真っ赤な顔をしながら一生懸命について行き、立派でした。これから1年間この縦割り班で活動することになりますが、それぞれの学年がその役割を果たし、発達段階に応じてそれぞれに成長して行ってほしいと思います。



～5月の全校朝会～

5月1日（月）に全校朝会を行いました。

今回話した内容を紹介します。「1つ目は、新学期が始まって1ヶ月たち学校にも慣れてきたと思います。しかし、この慣れた頃に気をつけなければいけないことがあります。それは、慣れた頃に怪我や事故がよく起こるといことです。そして、怪我をしたり事故に遭ったりする前には、必ずサイン（予兆）があります。そのサインとは、お家の人や学校の先生に怒られたり注意されたりすることです。人は、気持ちが緩んでいるときによく失敗をしてしまいます。そのときに気づいて気持ちを改めればいいのですが、改めない場合は、怪我や事故につながってしまうので気をつけましょう（※1）。2つ目は、言葉についてです。言葉には、言っている良い言葉と、言っているいけない言葉があります。言っている良い言葉とは、相手が気持ちよくなる言葉（ありがとうやあいさつなど）と相手のためになる言葉（姿勢が悪い等の注意の言葉）です。そして、言っているいけないのは身体のことです。どうにもならないことと相手がいやな気持ちになる言葉です。」



その後、生徒指導主任から4月の生活目標「あいさつ・返事をしっかりしよう」についての反省と5月の生活目標「苦しいことにも負けずにがんばろう」について確認しました。

※1 ヒヤリハットの法則（1：29：300）と言います。1件の大きな事故・災害の裏には、29件の軽微な事故・災害、そして300件のヒヤリハット（事故に至らなかったもののヒヤリとした、ハットとした事例）があるとされる。重大災害の防止のためには、事故や災害の発生が予測されたヒヤリ・ハットの段階で対処していくことが必要である。

～三島ふれあいネットワークの方々との対面式～

4月21日（金）三島ふれあいネットワーク見守り隊の方々と新一年生の対面式がありました。見守り隊の方々には、登下校の見守り活動、あいさつ運動、地区内の危険箇所の把握・改善など多くの活動を通して、本校教育が安心・安全な環境のもとで推進できるよう常日頃からご尽力いただいています。今年度も上島田小学校の全ての児童が健やかな成長を遂げられますように、ご協力をお願いしました。



～PTA総会のご出席ありがとうございました～

同日、授業参観とPTA総会がありました。お忙しい中、多数の保護者の方々にご来校いただき、また授業アンケートにも多数の保護者の方々にご協力いただきました。今後の授業づくりに生かしていきたいと思えます。ご協力ありがとうございました。

そして、PTA総会で今年度の執行部の皆さんが決定しました。新執行部の方々よろしくお願ひします。また、昨年度の旧執行部の方々、学級役員の方々、お世話になりました。

～東日本大震災により被災した児童生徒または原子力発電事故により避難している児童生徒へのいじめの防止について（文部科学大臣メッセージ）～

文部科学省から標記の件について周知依頼がありましたので掲載します。

【文部科学大臣メッセージ】 （保護者、地域の皆様方へ）

子供たちは、親や地域の大人の言動を見ています。被災児童生徒へのいじめの背景の一つには、避難されている方々への誤解や、被災地の状況や放射線に関する理解不足からくる、大人の配慮に欠ける言動があるとも考えられます。まずは大人である私たちが、被災された方々、故郷を離れて生活されている方々の思いを理解すること、放射線について科学的に理解するとともに、科学的に思考し情報を正しく理解することが必要です。現在でも、PTA関係者をはじめとする保護者、地域住民の方々が、教育委員会・学校と連携して、被災地の状況や放射線に関する理解を深めようとする取組が進められています。引き続き、保護者、地域住民の方々と教育委員会・学校が連携し、子供たちにおけるいじめをなくす取組を行っていただきますようお願いいたします。

文部科学大臣 松野 博一